伊那市創造館　常設展示資料案内

# 長野県神子柴遺跡出土品

長野県上伊那郡南箕輪村　神子柴遺跡出土
昭和63(1988)年6月6日　国重要文化財指定

神子柴遺跡出土の石器

神子柴遺跡は昭和33(1958)年から3回の発掘調査が行われ、局部磨製石斧9点、打製石斧4点、尖頭器18点など、全部で87点の石器が出土しました。

神子柴遺跡の石器は大型のものが多く、刃の部分を磨いた石斧や、両面を加工した尖頭器に見られるように、非常に高い技術で作られています。その特徴的な石器の中で、分厚く断面が三角形の刃部を持つ石斧は「神子柴型石斧」、大型で精緻なつくりの木葉形の尖頭器は「神子柴型尖頭器」と呼ばれるようになりました。

また、石器には伊那谷・和田峠付近の石材のほかに、遠く離れた岐阜県や新潟県以北の石材が用いられていたことも特徴の一つです。

## 神子柴遺跡3つの謎ー「神子柴論争」

### ①神子柴遺跡は祭祀場跡？住居跡？

神子柴遺跡では、6m×3mの狭い範囲から、別の場所から持ち運ばれたと考えられる、完成された石器ばかりがまとまって出土しました(右図を参照)。

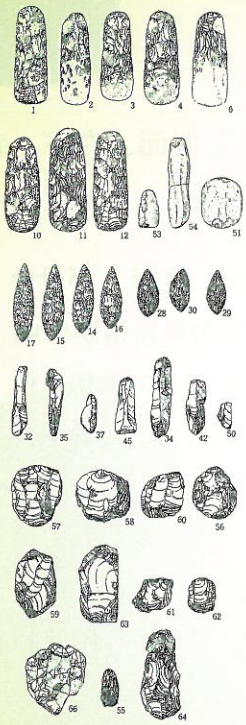
また、意図的に配置されたような出土状態が特徴的であったので、遺跡の性格をめぐって「祭祀場説」「墳墓説」「デポ(埋納)説」「住居説」など、多くの説が唱えられています。

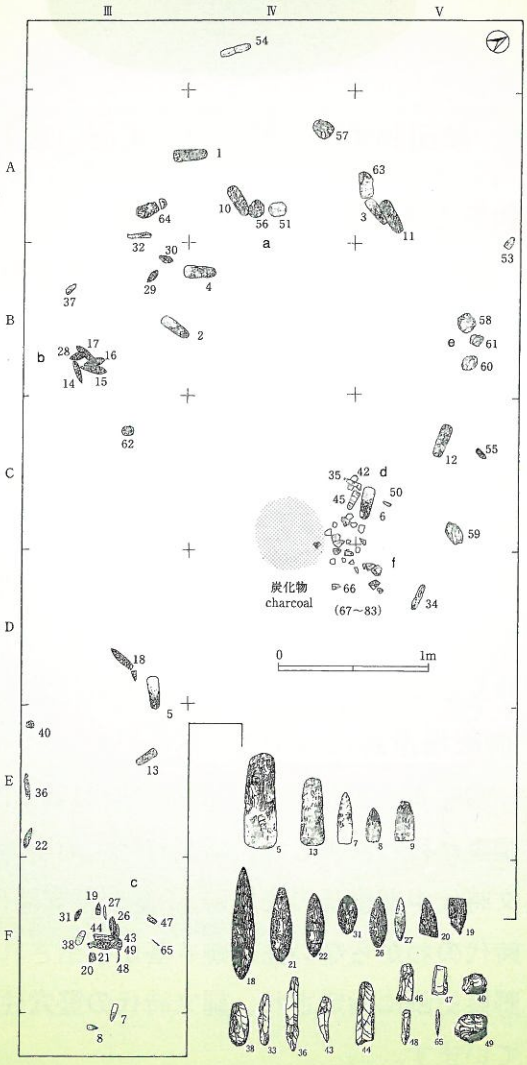
### ②石器は実用品？非実用品？

石器の表面を顕微鏡で観察した結果、尖頭器の一部の品は、ナイフのように使われていたことがわかりました。しかし、石斧をはじめ、現状では使われていない石器も多く出土しています。これら未使用の石器は、祭祀などに用いられたのではないか、という考えもあります。

### ③神子柴遺跡は旧石器時代？縄文時代？

神子柴遺跡では、土器が出土しておらず、石器の一部に旧石器時代的な特徴をもつ石刃技法がみられることから、その時代を旧石器時代と考える見方があります。一方で、神子柴型石斧や神子柴型尖頭器が出土する他の遺跡では、しばしば最古の土器が伴うことから、縄文時代の最初頭（草創期）とする見方もあります。なかなか決着がつかない議論ですが、今から約1万5000年前の、旧石器時代の最終末から縄文時代の最初頭にかけての遺跡であることは確かなようです。






遺物出土状況（林・上伊那考古学会編 2008）

背景遺物実測図：（林・上伊那考古学会編 2008）